

八幡地区

社協だより

第 33 号

令和5年2月28日

八幡地区社会福祉協議会



令和4年度 八幡地区社会福祉協議会 評議員・福祉委員移動研修会
令和4年10月27日(木)
石巻市 震災遺構 門脇小学校

令和3年度 事業報告及び決算報告

総会で承認された事業報告・決算報告は次のとおり

事業報告

【主催事業】

一、小地域福祉ネットワーク活動の実施

(1) 安否確認活動

(2) 日常生活支援活動

(3) ふれあいいきいきサロン活動

二、研修会の実施

コロナ禍も、夏以降沈静化の兆しを見せ始めたので研修会を実施した

(1) 新任福祉委員研修会
令和3年度は当社協の役員3名が講師となって十月実施
当該研修会は令和2年度から実施し、今年度で2回目

『福祉委員の役割について』

(2) 福祉委員全体研修会

当該研修会は研修会の中でも重要な研修会と位置付けており、密を避けるために同じ内容で十月と十一月の2回に分けて実施

『コロナ禍から見えてきた課題』
『コロナ後の地域福祉はどうあるべきか』

講師…東北福祉大学村山先生

三、ふれあい・いきいきサロンの実施報告書の作成
①年代別（H16年度から）
②町内会別（H25年度から）

四、広報誌「八幡地区社協だより第32号」の発行
2回の予定が1回となったが、ページ数は8Pのまま

【共催事業】

一、東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科村山ゼミとの連携の強化

二、八幡地区新年祝賀懇親会への参加

三、八幡「和」カフェの運営（コロナ禍で開催されず）

【学校関係】

一、八幡白はとパトロール隊への参加

二、一中校区善導協力会への参加

三、三条中校区健全育成協への参加

【講演会・研修会への参加】

決算報告

社協の会費について

《収入の部合計》	2,401,225 円	摘 要
前期繰越金	738,302	
会費	942,800	
普通会員	(926,800)	@300 円以上
特別会員	(16,000)	@1000 円以上
地区社協助成金	471,400	会費の 1/2
ネットワーク活動助成金	248,716	小地域福祉ネットワーク
諸収入	7	
《支出の部合計》	1,462,479 円	摘 要
社協納付金	942,800	会費
事業費	224,418	
運営事業費	(94,449)	
ネットワーク関連事業費	(100,469)	小地域福祉ネットワーク
サロン活動助成金	(29,500)	ふれあいいきいきサロン
広報費	68,640	地区社協だより
助成金・負担金	130,000	
その他活動費	96,621	

八幡地区社会福祉協議会は、地域福祉の中核として、地域住民が主体となり、住民自らの手で「福祉のまちづくり」を進めている任意の団体です。

八幡地区社会福祉協議会にとって、活動の財源である「会費収入」はきわめて重要かつ貴重な財源であり、会費の増収につぎましてご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご存知でしたか？

八幡地区社会福祉協議会は、昭和43年（1968）10月29日設立です。

令和4年度 事業計画及び予算

総会で承認された事業計画・
予算は次のとおり

事業計画

【主催事業】

一、小地域福祉ネットワーク
活動の充実強化

(1) 安否確認活動

(2) 日常生活支援活動

(3) ふれあいいきいきサロ
ン活動

二、研修会の充実

(1) 新任福祉委員研修会

(2) 福祉委員全体研修会

・年間2回の開催

・東北福祉大学村山ゼミとの
連携強化

(3) 評議員・福祉委員移動
研修会

・石巻地方の大震災遺構(旧
大川小学校・旧門脇小学校)

(4) (仮) 東北福祉大学生と
八幡社協理事との対話集会

三、「(仮)ふれあいいきいき
サロン」人材バンクの作成

四、広報誌「八幡社協だより」
の発行

・年2回の発行

・福祉委員の声の反映

五、(仮)「社協箱」の玄関ホ
ールへの設置

・年2回の発行

・福祉委員の声の反映

【共催事業】

一、東北福祉大学村山ゼミと
の連携強化

二、市社協青葉区事務所CSW
との連携

三、八幡「和」カフェの運営

四、八幡地区新年祝賀懇親会

【学校関係】

一、八幡白はとパトロール隊
への参加

二、一中校区善導協力会への参
加

三、三条中校区健全育成協へ
の参加

四、八幡児童館運営懇談会へ
の参加

【講演会・研修会への参加】

※あなたも、地域の中で互いに気にか
けあい、つながりの輪を支えてい
る「福祉委員」になって活動してみ
ませんか。

予 算

《収入の部合計》	2,610,000 円	摘 要
前期繰越金	938,746	
会費	927,000	
普通会員	(912,000)	@300 円以上
特別会員	(15,000)	@1000 円以上
地区社協助成金	463,500	会費の 1/2
ネットワーク活動助成金	240,000	小地域福祉ネットワーク
諸収入	40,754	
《支出の部合計》	2,610,000 円	摘 要
社協納付金	927,000	会費
事業費	530,000	
運営事業費	(130,000)	
ネットワーク関連事業費	(150,000)	小地域福祉ネットワーク
サロン活動助成金	(250,000)	ふれあいいきいきサロン
広報費	150,000	地区社協だより
助成金・負担金	160,000	
その他活動費	843,000	

※ CSW とは；コミュ
ニティソーシャルワ
ーカーの略称で、様々な社
会資源を活かしながら、
誰もが暮らしやすい地
域づくりを。地域住民と
一緒に推進する活動を
しています。

せんだい ai プラン

仙台市社会福祉協議会は、
第5次地域福祉活動計画「せ
んだい ai プラン」を策定し、
“ともに生き、支えあうまち”
を目指しています。

地域福祉の課題解決を目指
すための民間主体の計画で、
活動目標としては、①身近な
福祉課題に気づく力を高め
る、②地域の課題や良さを共
有する場づくり、③解決のた
めの行動、④一人ひとりの住
民の参加の推進をあげていま
す。

新任福祉委員研修会

《福祉委員の役割について》



令和4年7月19日に、第3回目となる「新任福祉委員研修会」を開催しました。

新任福祉委員研修会は、新しく福祉委員となった方々からの要望により令和2年度から開催することになったものです。

最初の年は、市社協青葉区事務所のCSWである石野主任をメインの講師として実施しましたが、3年度からは当八幡社協の地域福祉活動推進員を中心に役員が講師を務めて実施しています。

参加者は該当者10名中半分の5名となりましたが、和気あいあいの雰囲気です。

研修は、地区社協の代表的な活動である「小地域福祉ネットワーク活動」を中心に、総論的な部分を黒田地域福祉活動推進員が、①基礎的活動の安否確認活動や②生活支援活動のサロン活動や日常生活支援活動について、それぞれ生活支援コーディネーターの本木、サロンコーディネーターの八木より、具体的に使用している帳票をもとに説明しました。

“福祉委員”とは、実際に地域において社会福祉活動を地道に行う人であり、活動に当たっては、自分のできる範囲で、近隣の要援護者に対する見守り、声掛けやちょっとしたお手伝いをしたり、サロン活動にも参画したりするという地域福祉活動にはなくてはならない重要な役割をもっている人たちです。

福祉委員の役割としては、①みつける（見守り・声掛け）②しらせる（専門機関へ連絡）③つなげる（サロン等の活動に協力・参加）④ひろめる（福祉情報の提供・福祉意識の啓発）があげられます。

“地域福祉活動推進員”とは、地域での福祉活動の総合的なコーディネート役として、福祉関係者や関係団体等との意見調整・連絡調整及び事業の企画・立案・報告等を行い、各地区社協においてネットワーク活動の推進を中心となって担っています。

“生活支援/サロンコーディネーター”とは、地域で活動を充実させ、活動がより円滑に進むように地域の情報を収集したり、対象者のニーズを把握して、支援を要する人と支援する人との連絡調整等の役割を担っています。



※なお、質疑応答の中で地域包括支援センターについての話がたくさん出され、地域包括支援センターについて関心が強いようだったので、あらためて福祉委員全体研修会で研修テーマとして取り上げることになりました。

第1回 福祉委員全体研修会

～国見地域包括支援センターの活動事例について～



・令和4年
10月18日
八幡コミセン
2階大広間
参加者 47名



《国見地域包括支援センター》
講師の日向篤史所長（左）と
宮城邦枝機能強化専任職員（右）

（注）個別ケア会議とは；
地域での見守り活動の中で異変に気がついた時、専門家に相談しながら地域の力と公的なサービスを組み合わせて解決方法を話し合うものです。

令和四年十月十八日に第一回目の福祉委員全体研修会が開催されました。
研修テーマは「国見地域包括支援センターの活動事例について」とし、一般論としての地域包括支援センターではなく、まさに地域の、地域に根差した地域包括支援センターである国見地域包括支援センターとしました。
講師もセンターだけの講師ではなく、当八幡社協の会長であり、町内会長でもある大塚会長に実際に町内であった一人の高齢者の生々しい事例をお話していただき、それに基づいて専門職としての国見地域包括支援センターがどのように対応していたか（注）当時のセンター職員から直接話をさせていただきました。
その後、センターの所長から地域包括支援センターの仕事の内容等について話をいただきました。

ここで地域の頼りになる相談機関である“地域包括支援センター”（以下「包括C」という。）の役割を振り返ってみます。
包括Cの役割は大きく『日常生活支援』と『介護保険』に分けられます。

『日常生活支援』とは、①65歳以上の方の生活相談 ②65歳以上の方と同居している方の生活相談 ③認知症、在宅の介護相談、介護予防に関することであり、『介護保険』とは、①介護保険に関すること ②要支援認定を受けた方の介護サービスの利用に関することとなります。

より具体的には次のとおりです。

- ・ 地域の高齢者の介護相談について
- ・ 認知症の相談について
- ・ 介護保険の申請について
- ・ 自宅での介護の相談について
- ・ 施設の入所について
- ・ 消費者被害について
- ・ 介護予防について
- ・ 成年後見制度の活用について
- ・ 医療・疾病の相談について
- ・ 家族関係の相談について 等々

※困った時はまず相談、地域の
高齢者支援窓口
国見地域包括支援センター

国見地域包括支援センター
☎ 727-8923

第2回福祉委員全体研修会

～ともに生き、支えあうまちを目指して～

～せんだい ai プランとは～
～八幡地区のこれからを考える～

講師の村山先生



第2回目の福祉委員全体研修会が2月24日に盛大に開催されました。テーマは「ともに生き、支えあうまちを目指して～せんだい ai プランとは～/～八幡地区のこれからを考える～」で、講師は東北福祉大学の村山先生にお願いしました。

「せんだい ai プラン」の活動目標は、①身近な福祉課題に気づく力を高める ②地域の課題や良さを共有する場づくりを進める ③解決のために行動する ④一人ひとりの住民の参加を推進する というものです。

村山先生も積極的に指導



【ワールドカフェ】カフェのようにリラックスできる環境の下、テーマに集中した話し合いを重ねることで、多様なアイディアを結び付け、深い相互理解や新しい知識を生み出す会話の手法。流れは、「テーマ」について話し合い（第1ラウンド）、ホストを残して別のテーブルへ移動し、新しい組み合わせでテーマの解消法（実現可能性は不問）を話し合い（第2ラウンド）、最初のテーブルに戻り、他のテーブルで得たアイディアを紹介しあいながらさらに話し合う（第3ラウンド）。今回は第3ラウンド制で実施、印象に残ったことや思いついたことはどんどん模造紙に書いていきました。

いわば総論としての” ai プラン” を学んでから、次は実践としての自分たちの住む八幡地区のこれからを9グループに分かれて話し合いました。その手法は今回初めて取り入れました” ワールドカフェ” です。

ワールドカフェのテーマは『福祉委員として気がかりなこと、心配なこと』とし、第1ラウンドでそれらを出し合い、第2、第3ラウンドでそれらの解消法を話し合いました（実現可能性は不問）。

今回の研修ではグループの発表はなかったですが、普段話す機会がない他の福祉委員の人達と気楽におしゃべりを楽しんだ結果、いろんな気づきがあったのではないのでしょうか。それらの気づきを各人の心の中で膨らませ、新年度に芽生えて花が咲くように努力してみてもどうでしょうか。そしてそれを共有し蓄積していけたら最高です。

村山ゼミに参加して

～学生との交流会体験報告～

去る七月十三日（水）午後、この日は午前中から大雨という悪天候でしたが、八幡地区社会福祉協議会（以下「八幡社協」という。）の三名（大塚会長・黒田副会長・高橋事務局長）が東北福祉大学総合福祉学部村山研究室を伺い、厚かましくも三年生のゼミに参加してきました。目的は、学生たちに八幡社協のことを知ってもらい、学生たちとどうしたら連携できるか、連携を深めていくことができるか直に話しあうということと、とっても貴重な体験でした。改めてその時の様子を報告させていただきます。（以下の報告は、あくまでも高橋個人の報告となります。）

先生の研究室は五階で、そこで先生から今日のゼミの進め方等についての説明があり、ゼミの教室がある三階へ向かいました。大学で現役の学生たちと一緒に講義を受けるのは五十余年ぶりとなります。いささか緊張もします。教室に入って、三人の簡単な自己紹介の後村山先生より話し合いに入る前のレクチャーがあり、「せんだい・プラン」を策定するために開催された住民座談会で話し合われた地区社協の課題等の説明がありました。

若い人たちが地域とつながらないのは、「つながり方が分からない・自分とは関係がない・日々の生活が大変で余裕がない・参加するのは高齢者ばかり・どのようにすればいいのか分からない・地域の人が色眼鏡で見ていないか気になる・学業や趣味を優先する・地域とのつながりが面倒」など

めで、相互理解共通理解が不足していることが分かりました。

三グループに分かれての話し合いは、予め三人でどういうことを話すという統一された項目もないまま、三人それぞれの考えに基づいての話しとなりましたが、最初は村山先生の助言で八幡地区とは？八幡社協とは？から入りました。

私の入った2グループは女性二人男性三人で、学生たちから質問攻めにあうのではないか、質問が詰問になったり、いろんな厳しい発言や問題提起があるのかと不安でもあり、少しは楽しみでもあったのですがそういうことはなく、極めて穏やかに話し合いは続きました。

個人的には言いたいことは言わせてもらいましたが、それでも肝心の福祉委員や社協だより、朝の見守り活動等については触れないまま時間終了となってしまうことが残念です。よかったかなと思ったことは民生委員児童委員手帳を持参したことです。手帳に書かれている民生委員児童委員「信条」は、民児協の定例会の開催前には全員で唱和するのですが、丁度五か条ありますので五人全員に一条ずつ読んでもらいました。そして、ここに書かれていることはまさに社会福祉の根幹ではないか、その割には知れ渡っていない、社会福祉を学ぶ学生にはここに書かれていることを血肉として活躍してほしいと力説しました。（写真参照）

【学生よりの感想をいただきました】

・地域が抱える問題や現状について社協の方が細かく説明をしてくれ、地域の現状を踏まえ、取り組みを実践することによってどのような作用や効果がうまれるのか、課題解決への流れなど、細かな所まで議論を進めることができた。

・年齢に関係なく地域の人々と繋がり、会話をすることが大事だと感じた。そこに住む一人ひとりの問題を見つけて解決することはとても大変だけれど、特に高齢の一人暮らしの方の場合は、身近な人々同士で助け合い支えあうことができれば、孤独を感じることも減るのではないかな。

・心から地元が好きで、もっとこのまちに住みやすくなりたいと思い活動されていらっしゃるのが伝わり、私も自分の住む土地の情報や生活課題について知り、どうすればそれが改善できるか考えてみたい。

・これから地域内での交流などがますます重要になっていく社会だと思えますので、私も地域の方と交流できる機会があったら積極的に交流しようと思った。

・社会福祉協議会の大変さややりがいを知るよい機会でした。

※地域福祉の向上のためには、何と言っても地域を知ることが大切で、その地域で活動している地区社協の重要性を再認識し、若い人たちと連携して活動していきたいとすばらしいなと思いました。先生・学生のみなさんありがとうございました。

令和四年度

評議員・福祉委員移動研修会

評議員・福祉委員移動研修会は、新型コロナウイルス感染症により令和元年度の気仙沼市の津波伝承館での研修を最後に実施できない状態が継続していましたが、令和四年度になり、周囲の状況から何とか十月二十七日に実施することができました。

研修場所は、東日本大震災から間もなく十二年を迎える石巻市とし、震災遺構の大川小学校・南浜津波復興祈念公園・震災遺構門脇小学校で研修をしてきましたので、震災当時の対応が全く対照的となった大川小学校と門脇小学校について報告します。

大川小学校

大川小学校では、大川伝承の会語り部の佐藤敏郎さんに案内していただきました。個人的なことになりますが、私は過去に三回訪問していますが、語り部の話を聞くのは初めてでした。

大川小は平成二十三年三月十一日の

津波で児童七十四

名教職員十名が犠

牲になりました。

語り部 佐藤敏郎さん



熱心に佐藤さんの話を聞いている参加者

佐藤さんのお話しはどれもが実際に被災し、数多の悲しみや苦悩を経験し、乗り越えてきた人のみが話すことができるような内容で、だからこそ聞いている者に深い感動を与えるのだらうと思いました。

『大川小は未来を拓く場所 だからあの日のことを考えないといけない』



校門付近からアセンブリホール（多目的室）と1～2年生の教室を望む。写真のほぼ中央に徽章が見える。

『よくあの**大川小学校**と言われる。でも、あのではない日々を伝えていきたい』
『災害は、特別な場所に、特別な日でない時にやってくる』
『**山**ではない、**山に登る**という行動が命を救う。そうさせるのが防災である』

大川小学校 校歌 「未来をひらく」



2011/10/27 撮影

一
風かおる 北上川の
青い空 ふるさとの空
さくら咲く 日本の子ども
胸をはれ 大川小学生
みがく知恵 明るい心
くちびるに 歌ひびかせて
われらいま きょうの日の
歴史を 刻む

二
船がゆく 太平洋の
青い波 寄せてくる波
手をつなぎ 世界の友と
輪をつくれ 大川小学生
はげむわざ 鍛えるからだ
心に太陽 かがやかせ
われらこそ あたらしい
未来を ひらく

二〇一一年三月十一日、東日本
大震災が此の地を襲いました。巨
大津波によって、大川小学校児童
七十四名、教職員十名の尊い命が
失われました
御霊の安らかなご冥福を祈り、
茲に鎮魂の碑を建立します。
二〇一一年十月
大川小学校 遺族一同
石工 浜田彰三 謹刻

あした（未来）へ

たくさんの方がここを訪れ
想いを寄せてくれます

たくさんの人に支えられ 今
があります

空が世界をひとつにつなぐ
ように 人が人をつないでく
れることを知りました

どうか ここが みなさんの
明日へとつながるきっかけ
となりますように

（案内パンフレットより）



3年から6年生の教室



裏山から見た大川小学校
この裏山は傾斜が9度と
緩やかで、児童がシイタケ
栽培の体験学習をしてい
た場所。あの日も子どもた
ちは「山に逃げよう」と先
生方に訴え、迎えに来た保
護者も「先生、山に逃げて」
と指をさしたそうです。地
震で倒れた木は一本もあ
りませんでした。命を救う
のは山ではなく、山に登る
という判断と行動です。時
間/情報/手段もマニユア
ルも研修も訓練もいざと
いう時の判断に結び付く
ものでなければなりません。
（小さな命の意味を考え
る 第2集 p11 より）

・・・略・・・

ときに大事なことを見失い

気づけなくなることの おそろしさを知ってほしいのです
なぜ 一番大切なものが見えなくなるのかを考えてほしいのです

いのちの尊さを 誰もが理解しています

平和な日常を 誰もが願っています

話し合うこと 考えること とともに確かめ合うことで

きっと あるべき未来は続いていくはずで

（学校内の標示版より）

門脇小学校

午後からの研修先は津波火災の痕跡を残す唯一の震災遺構である門脇小学校でした。ここでも語り部の人に案内していただきましたが、想像したよりも校舎内をかなり歩きました。校舎内は当時の悲惨さを充分伝えるのですが、細かい目のネットで覆われているのが残念に思いました。

ここには地震から約一時間後に大津波が襲来し、津波火災が発生し校舎は炎に包まれています。門脇小学校は、東日本大震災の発生時に在校していた児童や



先生は一人の犠牲者も出ずことなく避難した小学校で、大川小学校とは対照的な対応をした小学校です。津波から避難するときは垂直避難だけでは難しい一面もあり、少しでも高いところへ避難する必要があります。語り部の人が言っていました。『逃げたら戻らない』そして『大切なものはTKB』であると。Tはトイレ、Kはキッチン、Bはベッドです。

門脇小学校 校歌

太平洋はひろびろと
望みを今日も思わせる
楽しく若いこの夢よ
光れ 光れ 美しく
北上川は生きて行く
命を深く思わせる
明るく高いこの歌よ
ひびけ ひびけ どこまでも
さあ 手をとって 手をとって
進もうよ 小学校は 門脇



南浜津波復興祈念公園

南浜津波復興祈念公園は、宮城県さらには被災地全体の要となる復興祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で犠牲になられたすべての生命に対する追悼と鎮魂の場となるとともに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となり、さらには公園の整備を通じて人々が係わり、人と人との絆、つながりを築いていくことにより、東日本大震災からの復興の象徴となることを目指します。



令和4年度 小地域福祉ネットワーク活動を行っている
町内会と町内会長及び担当民生委員と福祉委員のみなさん

(敬称：略)

No	町内会名	町内会長	町内に関わる 民生委員	小地域福祉ネットワーク活動 福祉委員
1	中島丁町内会	澁谷 善功	澁谷 善功	○澁谷善功 川上良雄 熊谷美紀子 澁谷三心子
2	十二軒丁親交会	山崎 光男	平田 明	○山崎光男 平田明
3	八幡第四区町内会	佐藤 典夫	柴崎亜紀子	○大平理智子 佐藤典夫 早坂和子 佐藤怜子
4	北三土橋共栄会	水本 洋一	遠藤 弘子	○水本洋一 高橋孝士 山内一弘
5	澱町むつみ会	遠藤 光男	遠藤 弘子	○佐々木和恵 遠藤光男
6	広瀬町親和会	遠藤 貞雄	遠藤 弘子	○遠藤貞雄 遠藤弘子
7	角五郎南部町内会	加賀まさ子	高橋 新一	○加川絹子 佐々木和枝 加賀まさ子 高橋新一
8	角五郎丁北部町内会	加藤 達也	加藤 達也 本木 京子	○望月博子 松木美津江 加藤達也 本木京子
9	セブンスター町内会	伊藤 健一	加藤 達也	○野家志津子 伊藤健一
10	角新会	大友 幸一	黒田スミ子	○大友幸一 黒田スミ子 飯田茂子 熊谷幸子 大友まさ子
11	北五十人町地区町友会	後藤 潮	佐藤 祥子 高橋 吉雄	○後藤潮 高橋吉雄 後藤克子 女川 尚子 佐藤郁 佐藤祥子
12	CIマンション中島丁町内会	中村 一成	澁谷 善功	○中村一成
13	石切町町内会	岩井 和子	小野寺 敏	○小野寺淳子 岩井和子 小梨貞子 原田晴彦 小野寺敏 能嶋恵子
14	覚性院丁町内会	津田 克己	津田 京子	○最上俊介 津田京子 岩谷信雄 川村久子
15	八幡第五区町内会	森 和男	柴崎亜紀子	○森和男 森洋子 山田浩之 柴崎亜紀子
16	八幡第二区八幡会	佐藤 信一	三浦 悦子	○増田多恵子 三浦悦子
17	八幡第三区町内会	八月朔日幹夫	三浦 悦子	○八月朔日幹夫 松崎和枝
18	江戸町好江会	鈴木 彰	小野寺チヨ子	○遠藤秀男 鈴木彰 小野寺チヨ子
19	大崎東部親交会	佐藤 隆雄	松本 隆 佐藤とも子	○佐藤とも子 佐藤郁子 佐藤隆雄 小嶋時子 鄭郁蓉
20	大崎西部親交会	大塚 純一	大塚由紀子	○大塚純一 大塚由紀子 鈴木弘子 室月都子
21	土橋通中部町内会	阿部 忠	橋本美智子	○橋本美智子 阿部忠 鈴木幸子 阿部まり子 佐藤勝子
22	北六住民会	江尻 正子	橋本美智子	○江尻正子 柴崎しげ子
23	土橋通北部親睦会	阿部 俊昭	赤間 浩子	○高橋龍太郎 赤間浩子 櫻井由美子
24	北六西部町内会	今野理一郎	木村 洋子	○今野理一郎 木村洋子
25	西部北七町内会	川上 良明	佐藤祐見子	○川上良明 佐藤祐見子 伊澤睦子
26	北八中部親和会	八木 和彦	八木 康子 関口 恵子	○八木和彦 八木康子 関口恵子
27	北八西部親交会	岩井 幹雄	山田久美子	○岩井幹雄 桑原正明 山田久美子
28	柏木町内会	柴田まゆみ	柴田まゆみ	○柴田まゆみ 杉村のり子
29	新坂町西部町内会	菊地 精一	菊地 繁子 二科みさ子	○菊地精一 菊地繁子 二科みさ子 荒岩潔

※令和4年5月現在です。

令和4年度 町内会別社会福祉協議会 会費納入一覧

町内会名	金額(円)	町内会名	金額(円)
中島丁町内会	63,000	大崎東部親交会	52,200
十二軒丁親交会	39,000	大崎西部親交会	36,000
八幡第四区町内会	24,000	土橋通中部町内会	30,000
北三土橋共栄会	30,000	土橋通北部親睦会	22,200
澱町むつみ会	14,500	北六住民会	8,000
広瀬町親和会	4,000	北六西部町内会	36,000
角五郎南部町内会	7,800	西部北七町内会	43,500
角五郎丁北部町内会	75,000	北八中部親和会	66,500
角新会	35,700	北八西部親交会	39,900
北五十人町地区町友会	43,500	柏木町内会	36,000
セブンスター町内会	24,000	新坂町西部町内会	18,900
C.I マンション中島丁町内会	14,400	柏木西部自治会 A 棟	5,000
石切町町内会	24,000	柏木西部自治会 B 棟	5,000
覚性院丁町内会	12,000	伊勢堂下町内会	18,000
八幡第五区町内会	30,000	コープ野村中島丁自治会	13,500
八幡第二区八幡会	12,000	角五郎警察第二宿舍	3,000
八幡町第三区町内会	30,000		
江戸町好江会	21,000		
		合 計	937,600

《八幡地区募金会からのお知らせ》
令和4年度の共同募金総額は、九十万五千五百五十円でした。
ご協力ありがとうございました。

民生委員児童委員信条

一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。
一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。
一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。
一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。
一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

児童憲章 前文

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。
児童は、人として尊ばれる。
児童は、社会の一員として重んぜられる。
児童は、よい環境のなかで育てられる。

児童福祉法(抄)

第一条 すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。
2 すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない。

児童虐待の防止等に関する法律(抄)

第三条 何人も、児童に対し、虐待をしてはならない。
第六条 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、・・・福祉事務所若しくは児童相談所に通告しなければならない。

編集後記

まず最初に今年度も「八幡社協だより」の発行が一回となっていましたことをお詫び申し上げます。

その代わり、社協だより33号は内容が盛りだくさんとなりました。何とか新型コロナウィルス感染症のために中止せざるを得なかった評議員・福祉委員移動研修会を今年度は実施することができました。

研修先は石巻市とし、東日本大震災遺構「大川小学校」と「門脇小学校」を訪問し、語り部の方のお話を聴いて災害に対する思いを新たにしました。

また、地区社協の活動の中心である福祉委員のみなさんの日常の活動を充実させ、活動しやすいようにする福祉委員全体研修会は非常に大切であり、十月と二月の二回別々の内容で実施することができました。

少しでも早く地区社協の活動が平常に戻ることを願って編集後記とします。

編集委員

大塚純一・黒田スミ子・高橋新一